

に町民の意見を反映

第3回「これからの我がまちを語る会」

4月25日、町文化会館を会場として「これからの我がまちを語る会」が開かれました。

これは、實川町長の政治指針である開かれた行政の一環として、昨年から行われているもので、今回で3回目となります。

はじめに、町長が町の現状と今年度の主な事業内容等を説明。そのあと「より充実した住みよいまち」にするにはどうしたらよいか、出席した方々からさまざまな意見が出されました。

今号ではそのときの概要をお知らせします。



「まちづくり」に向けて、さまざまな意見がかわされました。

農業後継者の育成

私たちが若い時代には、農業後継者として専門的な技術や知識を習得するための海外研修などがありました。最近このような機会が少なくなっているように思えます。

生産性の高い近代農業を確立するためには、基盤整備や農業機械の共同化なども大切ですが、これからの農業は、後継者不足や経営者の高齢化等によって、大型化した専業農家を中心になつてくると思われるので、将来担い手となる後継者の育成にも積極的に取り組むべきだと思います。



栗山川の汚染対策

上水道の水源である栗山川には、生活排水をはじめ工場やゴルフ場からの汚水が大量に流れ込んでいます。そのために川の

汚れが進んでいます。

町でも栗山川周辺の町村と栗山川汚染防止対策協議会を設立し、川の浄化に取り組んでいるようですが、行政だけではなく、水を流す私たちが「栗山川の水は飲料水に使用するんだ」といった意識を持って生活することが大切だと思います。



文化の充実

いま横芝では、ふれあい坂田池公園につづいて、スポーツ広場や駅前広場などの大きな事業が着々と進められています。文化面での整備が遅れているのでは。

たとえば、町内には坂田城址や17代横綱小錦の墓など貴重な文化財がありますが、説明板がないところがあります。また、その場所へ行くにしても案内図もありません。21世紀に向けてのまちづくりには、スポーツ施設や公園など